

尾瀬ネットワーク通信



Vol. 18. No. 3 2015 年 11 月

目 次

2015 尾瀬アカデミー・現地研修に臨んで	1.2
新指導員ご紹介	3.4
福島特別研修・平ヶ岳	5
群馬側活動/特別研修	6.7
福島側最終活動	7
事務局だより	8



■ 2015 尾瀬アカデミー — 現地研修に臨んで —

副理事長 磯部 義孝

尾瀬自然保護指導員を養成する『尾瀬アカデミー』が今年も開催されました。

福島側のスケジュール（前期）は、7月18～19日の予定でしたが、台風11号の接近によりやむなく中止とし、9月5～6日に変更、開催を致しました。日程変更にも係わらず、有り難いことに受講者全員が揃ってご参加いただきました。主催者側からは講師として円谷、磯部指導員、サポ

ーターとしては菅野（文）、佐藤（康）指導員にもお手伝いいただきました。第1日目は尾瀬御池に集合、開講式のあと燧裏林道→段吉新道→赤田代→東電尾瀬橋→東電小屋→ヨッピ橋→尾瀬ヶ原を経て、燧小屋に4時半に到着。夕食後は和やかに机上学習を行い、一日目が終了。今年の受講者も尾瀬通のベテラン揃いであり、また講師泣かせで、自然解説をするにも私の方がたじたじの面が多く、勉強させていただきました。高山植物、野鳥、歴史など何を説明してもすべて納得済みと、説明しなくても良いくらいでした。二日目は段

小屋坂から白砂峠へ向かいます。雨で濡れた木道は特に滑りやすく、受講者の一人が自作のスベリ止めを持参してきました。濡れた木道を歩くには最適な小道具の一つです。装着しても違和感がなく、前日に一日中着けて見ましたが、終日歩行でも大丈夫。結局は二日間歩いても、まだまだ大丈夫という優れものに対し「ただただ敬服」。

後期は10月10～11日に開催。今回は群馬側(Aコース)、福島側(Bコース)が、尾瀬沼三平下で合流し、合同による研修会です。尾瀬沼南岸コースの荒れた道を経て、沼尻の堰堤を見学。



火事(9月21日失火により全焼)で消失した沼尻休憩所(長蔵小屋売店)

は、残っているものは基礎のコンクリート杭だけとなり、付近の木道や道標も真っ黒に焼け焦げていました。今後は再建するのか、どのようになるかが気になる所です。本来ならこれを機会に環境省、または福島県などがきちんと主体となり、休憩施設(トイレ等)を整備して欲しい所です。最後は沼尻の旧ゴミ捨て場を見学しました。昔に捨てた自分のゴミもこの場所に棄てられていたのか、と反省する参加者もありました。まだまだ埋まっているゴミの山。しかしこれ以上掘り返すと周りの木々が倒れてしまうという……痛し痒しの面があります。

沼北岸コースを大江湿原へと進み、私共が宿泊する尾瀬沼ヒュッテに到着。夕食後には改めて受講者10名、主催者側5名による自己紹介を皮切りに、尾瀬との関わりや尾瀬アカデミーへの参加の動機などを語り合い、和やかに『ミニ懇親会』を通じ交流を深めました。

最終日は閉講式にて修了証を交付後、大山副理事長より講話があり、無事閉会となりました。雨天ではありましたが全員参加で、尾瀬の先駆者として、尾瀬を護り、尾瀬を後世の人たちのためにと、ご尽力された平野長蔵翁のお墓参りをして合

同研修は散会としました。

新しく指導員になられた方々の、今後のご協力とご活躍に大きな期待を寄せつつ、今回の重いリュックを降ろします。

■群馬側研修ルート

●第1回(7/11～7/12)

鳩待峠発→山の鼻→ビジターC 見学→研修見本園→至仏山登山(1640mあたりまで)→山の鼻→鳩待峠→アップル(座学/泊)



鳩待峠発→山の鼻→上田代→三又(牛首)→中田代(下の大

堀川)→竜宮→三又→山の鼻→鳩待峠→解散

●第2回(10/10～10/11)

大清水発→(自動車道)→一之瀬→三平峠→三平下→(福島側と合流)→尾瀬沼取水口→尾瀬沼南岸→沼尻→負の遺産→尾瀬沼ヒュッテ(座学/泊)修了式→ビジターC→長蔵小屋/尾瀬沼周辺→ヤナギランの丘→三平下→一之瀬→(旧道経由)→大清水(解散)

■福島側研修ルート

●第1回(9/5～9/6)

尾瀬御池発→燧裏林道(上田代、横田代)→段吉新道→赤田代→東電尾瀬橋→東電小屋→ヨッピー吊橋→見晴→燧小屋(座学/泊)見晴→段小屋坂→白砂湿原→沼尻→尾瀬沼→大江湿原→沼山峠→御池

●第2回(10/10～10/11)



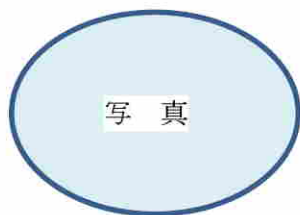
御池発→沼山峠→大江湿原→三平下→(群馬/福島と合流)→取水口→尾瀬沼南岸→沼尻→負の遺産→尾瀬沼

ヒュッテ(座学/泊)

修了式→ビジターC→長蔵小屋/尾瀬沼周辺→ヤナギランの丘→沼山峠→御池(解散)

2015 尾瀬アカデミー新指導員ご紹介 (No.1)

■庄司利則さん (福島県喜多方市)



ネットワークでは、後世に尾瀬の自然を伝えて行くことをモットーとしている。まさにその通りであるが、『みんなの尾瀬』とするためには、脆弱で繊細な自然をいかに守り育てていくかが重要になる。自然保護の大きな力の源は、『私に何が出来るか』を考え、「尾瀬の現場・現実・現状」をしっかりと捉えることである。国立公園尾瀬での保護活動は、官学民との協働となるが、今後のネットワーク活動で得るであろう「大きな力」に期待する。

■熊本總之助さん (福島県郡山市)

写真あり

—美しい尾瀬—

尾瀬アカデミー講座を受講し、尾瀬の自然、そして美しい湿原を守ること、ゴミのない尾瀬にすることを感しました。またこれからの尾瀬散策の時も自然保護、ゴミの持ち帰りに協力することなど、入山者にもお願いし、楽しい尾瀬歩きにしたいです。

■国分秀夫さん (福島県郡山市)

写真あり

今回、郡山から3名で参加しました。私は山歩きと自然とのふれあいは好きですが、環境に対する関心はあ

まりありませんでした。今回の研修に誘われ、自然環境を守り、後世に残す活動をしている NPO 法人、団体などを改めて意識しました。そして研修 (特に懇親会) で自然を愛し、自然環境保護に対する熱い思いをもって実践している方々に接し、少し変化があったように思います。今後、ご一緒する機会があれば何かとよくお願いします。

■鈴木鑑爾さん (福島県郡山市)

写真あり

先輩諸氏の温かいご指導をいただいて、念願の指導員になることができました。

五十年も前に初めて燧ヶ岳に登り、原を歩いた感動と印象を、尾瀬を訪れた多くの人たちと共有できるような活動ができれば良いなあと願っています。

■中野 豪さん (福島県白河郡矢吹町)

写真あり

私の町では総合型スポーツクラブが発足されます。その野外活動プランの企画として、尾瀬における野外活動立案のために参加しました。

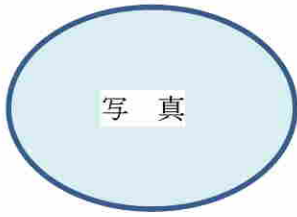
ただ尾瀬を案内するのではなく、尾瀬に対する見方が変わり、新しい見方で再び尾瀬を訪ねたいと思っています。

今回の講座に参加して私も変わりました。保護ということを出し、何を訴えるべきか、資料として何を選ぶか、講師の先生方の案内ごとにテーマがあり、この教材で何を案内しようとしているかが、手に取るようにわかりました。

この講座は私が期待していたもの全て、いやそれ以上のもので、とても満足しています。来年の春が待ち遠しいです。

2015 尾瀬アカデミー新指導員ご紹介 (No.2)

■上原健司さん（千葉県浦安市）



この度、尾瀬アカデミーに参加させて頂きました上原です。ほんの少しではありますが尾瀬の「陰と陽」を知ることが出来た4日間でした。人と人、人と自然のつながりを大切に活動していきたいと思います。

■高山正明さん（東京都板橋区）

写真あり

湿原を保護することだけが目的なら「立ち入り禁止」にすればいいのですが、尾瀬は何度訪れても飽きることがないし、私自身の“居場所”と言えます。そして、その大事な場所を悩ませている生き物は、シカでもクマでもなく人間であると……。

■勝田真穂さん（東京都大田区）

写真あり

山と写真、自然の中を歩くのが大好きで、毎週のようにどこかの山を歩いています。NACS-J 自然観察指導員ですが、現在ほとんど活動できていない状況です。今回の研修では、尾瀬の抱えている問題や、今まで知らなかった尾瀬の裏側などを見ることができて、とても有意義な時間でした。

紅葉も素晴らしく、秋の尾瀬を満喫することができました。知識も乏しくまだまだ勉強不足ですが、これから楽しみながら尾瀬をもっと知っていきたいと思っています。歩いていない所もたくさんあります。

仕事をしているため、どのくらい活動に参加できるかわかりませんが、なるべく時間を作って尾瀬の美しい自然を守るお手伝いができたらいいなと思っています。よろしくお願い致します。

■朝山洋子さん（群馬県高崎市）

写真あり

二回の養成講座を修了し、尾瀬インタープリターのスタートラインに、どうにか立つことができました。尾瀬の抱える様々な問題点を改めて考えさせられると共に、福島側、群馬側でそれぞれの特性を生かした先輩諸氏の活動の様子も知ることができ、大変勉強になりました。自然にも人間にも思いやりのある接し方を学んでいきたいと思いますので、よろしくお願い致します

■竹之内昭子さん（群馬県渋川市）

写真あり

“遙かな尾瀬～遠い空～♪” だった十数年前、初めての尾瀬との出会いは衝撃的だった。「なんて素晴らしいのでしょうか！」群馬県民であることを誇りに思った。そして「いつまでもこのままであってほしい」と願った。それから色々な季節を歩き、色々な尾瀬を見てきた。今回の研修で見た一面も尾瀬そのものだった。これからも尾瀬を歩き、尾瀬を知り、尾瀬を守り、美しい尾瀬を伝えられる一人でありたいと思います。

■ 福島側特別研修-平ヶ岳登山-

2015/7/31 (金) ~ 8/1(土)

指導員 飯沼 巳好

会津田島駅に集合した 10 名は、道の駅で昼食を取り、一路新潟県の銀山平まで車を走らせた。途中、桧枝岐のひのき屋さん、御池、平ヶ岳の表登山口である鷹ノ巣、銀山湖に立ち寄り、奥只見山荘に宿泊。

夜明け前の 3 時に起床後、山荘のバスで 3 時半に出発。真っ暗の中、車一台がやっと通れる曲がりくねった林道をひたすら走り、中ノ岐（なかのまた）登山口には 5 時 25 分に到着した。

銀山平周辺の宿に宿泊した登山客だけが利用でき、鷹ノ巣登山口より平ヶ岳を短時間で往復できる裏登山口とでも言う登山口である。この中ノ岐登山道は段差が大きく意外と歩きづらい。



(中ノ岐登山道)

朝食のオニギリを食べた後、平ヶ岳のハイライトである玉子石にご対面。本当にここにだけポツンと丸い岩が乗っている絶好のビューポイント。天気も最高でした。

平ヶ岳山頂へはもう少し。雪の残る斜面を下り登りかえすと、そこは池塘が点在する一面の平原と山並み、どこまでも青い空、心地よい風がスーッと顔を撫でていく。



(玉子石と池塘・2076m)



(笑顔のメンバー)



(平らな平ヶ岳山頂・2141m)

山頂には鷹ノ巣から長い距離を登ってきた比較的若い登山者が多く、広がる湿原と眺望を楽しんでいた。我々も眺望を満喫した後、帰りの時間を気にしながら無事帰途につく。

(参加者：計 10 名) 安部晃樹、飯沼巳好、磯部義孝、伊藤アケミ、坂本敏子、菅野文子、円谷光行、藤田隆美、古山賢一、長島睦世

平成 27 年度

■ 群馬側 第 3 回活動報告

担当理事 小鮎 守

日時:2015/7/25(土)a.m7:00~p.m15:30

天気/気温 (鳩待峠) 16℃ 曇のち快晴

場所:鳩待峠 (入山指導)

山ノ鼻 (研究見本園/チョウの調査)

至仏山トイレアンケート

概要

夏休み期間の第一日曜日であり、さぞ多くの登山者が見られるものと期待して臨んだ活動日であったが、登山者は意外に少なく平日の様な登山者数である。

本日の活動は、入山指導、至仏山トイレアンケート調査、加えてチョウの調査等を予定。

入山指導ブースは、活動参加者が 2 名のため設置せず。尾瀬入山口、鳩待峠入山口で 8 時 40 分まで実施した。

入山指導

登山口での入山指導とリーフレットの配布を実施。今日は尾瀬ボランティア 5 名が山ノ鼻登山口で活動を行っていた。また県警谷川山岳遭難救助隊も 4 名ほど警備活動をしている。此のところの尾瀬では、土日には急病者が多発している。本日も山ノ鼻最高気温予報は 28℃となっている。熱中症に要注意である。入山口では中国台湾など東南アジア系の人たちを中心として外国人が多く見受けられる。入山指導は後半のチョウの調査の為 8 時 40 分に終了。配布リーフレット 86 枚・ピンバッチ協力 0 名。

(活動参加者) 小鮎 守・椎名宏子

チョウの調査 (山ノ鼻/研究見本園)

山ノ鼻・牛首周辺観察のため、薄曇りの鳩待峠を出発。7 月にしては肌寒く、至仏山も雲の中、またウグイスが時々鳴いている。登山者も少なく静かな山道を山ノ鼻へ向かう。山ノ鼻到着時は快晴となり、周辺ではノアザミが最盛期。ニッコウキスゲは花も落ち始め、花期はあと一週間ぐらいか。オゼコウホネは牛首と研究見本

園にて散見され、キンコウカ、ヒツジグサ、コオニユリ、ミズチドリも確認する。動物はコヒョウモンチョウやノアザミに吸蜜していたホソバセセリ、またハッチョウトンボを確認する。

(活動参加者) 小鮎 守・椎名宏子

至仏山トイレアンケート

アンケート収集は、至仏山登山に向かう人たちにはかなり難しいため、入山時と下山時に分けヒアリングを実施。7 時からの早朝の回答者は 6 名、13 時からの午後の回答者は 32 名(合計 38 名)の回答が得られた。ご協力くださった方々ありがとうございました。

(活動参加者) 小鮎 守・椎名宏子・宮前和夫

平成 27 年度

■ 群馬側 特別研修-活動報告

担当理事 小鮎 守

・日時:2015/8/7(金)~8/8(土):

8/7 日 15 時集合、

8/8 日 a.m7:00~p.m15:30

・場所:日光湯ノ湖・戦場ヶ原・西沢金山跡

・研修テーマ:『奥日光の自然の成り立ち-生物多様性を学ぶ及びアサギマダラの調査』

●活動内容

奥日光は男体山(2486m)をはじめ、太郎山、山王帽子山、三岳山などの山麓に囲まれた標高 1400m 付近に広がる盆地であり、小田代ヶ原には堰止湖の湯ノ湖から湯川が南北に流れ、湿原が形成されている。

小田代ヶ原の広さは、隣接する戦場ヶ原の約 4 分の 1 ほど。湿原から草原への遷移期にあり希少な景観を持ち、日光国立公園の特別保護地区に指定、またラムサール条約登録の湿地帯でもある。8 月はニッコウキスゲをはじめとするたくさんの高山植物が見られる。ここでは、『生物多様性とシカの食害』について学ぶ。8 月 7 日: 奥日光フィールドの解説(湯元ビジターセンター自然解説員/丸山正樹講師)

8 月 8 日: 奥日光のシカ害と生物多様性に学ぶ。
(宇都宮大学農学部/高橋 滋講師/奥日光・戦場

ヶ原)

1 日目・集合-休暇村→湯元ビジターセンター

2 日目・休暇村→湯ノ湖→小田代ヶ原-光徳牧場
→西沢金山→光徳牧場→解散

●アサギマダラの調査

西沢金山跡は奥鬼怒林道の間地点にあり、江戸時代から昭和初期にかけて採掘された、国内でも有数な大金山であった。現在は廃坑となり石垣が残る。午後の活動としてアサギマダラのマーキング調査を実施。

調査報告等は、現在実施担当者による報告書作成中であるが、たいへん多くのアサギマダラに出会えた。

参加者 (17 名) :

伊藤アケミ、伊藤佳美、小鮎 守、坂本敏子、佐藤秀雄、椎名宏子、清水英夫、清水良子、高橋 滋、刀 光夫、永島 勲、長島睦世、永島八千代、西山伸一、宮前和夫、横山孝一、渡部淳司

■第 5 回 福島側-活動報告

指導員 鍋山智之

実施日 : 2015 年 10 月 9 日 (金) ~ 11 日 (日)

○10 月 9 日 (金) (檜枝岐村ひのき屋/前泊)

天気/晴

「ひのき屋」に 17 時集合して明日からの活動予定を確認、18 時から懇親会となる。今年度福島県側の最後の活動で、2 時間ほど食事をとりながら談笑し明日に備えた。

○10 月 10 日 (土) 晴のち曇 (ひのき屋泊)

朝からピカピカの晴天、青空に紅葉が映える。いつものように 6 時朝食、7 時に御池バス停脇に机を設置。リーフレットやバッジ等を並べ、入山指導や啓発活動開始。駐車場は 7 時の段階で 8 割ほど埋まる。リーフレットを渡しながらか質問等に答え、コース等の説明・案内をした。

沼尻の休憩所の火災・全焼を知らずに来て、コースを変更せざるを得ない入山者もいた。休憩所のトイレが使えないのが残念。沼一周や、ビジターセンターから見晴間の通行に多少支障が出ている。随時バスに乗り乗しての添乗解説を行ったが、

ブナ平を見下ろす場所でのバスの停車では、あまりの綺麗さに感嘆の声が上がった。入山者は、家



族連れや若者のグループや小団体などさまざまであった。ほぼ半分くらいが尾瀬

沼までの入山であり、ハイキング程度の軽装であった。さすがに、燧ヶ岳登山や見晴方面への入山者は装備が充実していたようであった。

10 時半頃に机等を片付け、その後沼山峠から七入へ歴史の道旧沼田街道 (道行沢) を下るグループと裏燧林道を途中まで行くグループに分け、それぞれ紅葉真っ盛りの尾瀬を堪能した。車道が発達した今日、旧沼田街道は殆ど人が通らないが、この日は上り下り数名が静かな秋を楽しんでいた。

天気予報通り、午後からは雲が多くなり下り坂であった。

○10 月 11 日 (日) 雨のち曇



6 時半頃から雨となり、テントを張った活動となった。雨にもかかわらず結

構人出があり、駐車場は 10 時頃には満車となった。前日と同様に活動を行ったが、燧ヶ岳登山を諦めてのコース変更や、入山せずに引き返す姿も見られた。11 時頃片付けて解散。以上で本年度の福島県側の活動が終了。

(参加者=17 名)

飯沼己好、伊藤アケミ、伊藤広志、伊藤佳美、小林ミヨ、坂本敏子、佐藤秀雄、椎名宏子、田中志郎、円谷光行、刀 光夫、永島 勲、鍋山智之、初谷 博、疋田正博、藤田隆美、横田 隆

事務局だより

2015 年度の入山啓発活動や尾瀬アカデミー、また特別研修や調査・観察会など、フィールドにおける活動は終了いたしました。雨天に泣かされたこともありましたが、多くの指導員によるご協力のもと充実したものとなりました。次年度も尾瀬のフィールドでお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

■今後の日程など

- ・2015/11/7：第1回理事会：（東京）
（議案）平成27年度活動報告/平成28年度活動計画（概案）/平成28年度総会日程等
- ・2016/01/30：（予）第2回理事会
（議案）平成28年度活動計画および総会議案など

■今年の尾瀬関連 news（記事/見出し）

月/日	News 見出し	出所
1/16	平成26年度尾瀬国立公園入山者数31万5400人（鳩待口/17万6800人（56.1%）、沼山口/7万1500人（22.7%）	環境省
3/27	尾瀬20年ぶり学術調査 保護財団方針承認 時期や対象、手法検討	上毛新聞
5/14	尾瀬沼を再整備 ビジターセンター建て替え、展望広場…環境省	上毛新聞
5/21	御池～沼山峠間シャトルバスの運行休止	桧枝岐
6/21	乗り合いタクシー営業開始（大清水から一ノ瀬）	上毛新聞
7/4	「見晴新道」に代わる新ルートの開拓に向けた調査	福島民報
9/21	床下の発電機から出火か 尾瀬・沼尻休憩所が全焼	福島民友
10/9	外国人誘客考える 観光地づくりで意見交換 尾瀬/片品フォーラム	上毛新聞
10/12	尾瀬片品の魅力体験 台湾人対象にモニターツアー/湿原散策	上毛新聞

■QRコード（当会ホームページ）



会報1P上段にも掲載した二次元読み取りコードは当会HPです。カメラ付き携帯電話の大半が、QRコード読み取り対応となっていますのでご利用下さい。

■福島側「親睦会」開催について

2016年1月に親睦会（1泊2日）を企画予定しています。詳細は12月に決定します。

お問い合わせは藤田理事まで（090-5359-0752）

（Eメール）thanat33tyamat@docomo.ne.jp

編集後記

2015 尾瀬アカデミーで合同研修を行った尾瀬沼。今年の初雪は10月。22年間（1993-2014年）の統計による平均値では、積雪が11月8日より始まり、翌年5月25日の消雪まで約200日間という、白く静かな季節に入る。また12月には真冬日（最高気温0°未満）が21日間に及ぶほど、急速に極寒の世界に変貌する。年間の真冬日発生日数は、平均97.6日であり、富士山頂に次ぐほど。尾瀬沼は日本有数の厳しい気象条件下に位置する。湿原も木道も雪の中。堆積したゴミも、悪化した水質も雪と氷に閉じ込められる。 （大山）

NPO 法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.18 No.3 2015年11月20日

発行人：永島 勲

編集担当：大山昌克

Web 担当：鈴木誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷様方

電話/FAX0248-94-5003

■群馬支部

〒371-0846 前橋市元総社町2-21-12 小鮎様方

電話/027-251-1089

Web: <http://www.oze-net.com/>

お問い合わせ info@oze-net.com<info@oze-net.com>